北海道医歌人会詠草

アロニア

札幌　浜島　泉

アロニアの色濃きジュース　当節はサプリメントの呼び声高し
無言にて過ぎむとすれど　向かひより挨拶をされ恥ぢ入り応ず
日が沈む方位に雲が　暗き町明き山並み際だちてをり
「庭に今朝エゾマダラ蛾が来たのよ」と　妻はデジカメ画像を示す
草刈りの甘き香りが留まりつ　そを散らすべき風来る勿れ

杞の憂い

釧路　児玉　昌彦

沖縄の戦禍をくぐりて生き延びし君の語れる核武装論
戦争の同じ時代を生きてさえ天と地ほどの意見の違い
原爆を投下した国　された国　心の溝は平行のまま
宇宙さえ統べらむというその傲り　不治の病となりて急ぐ死
智慧の実を喰らいしサルの間氷期　遂に終わるか　核の冬にて

ＪＲ

北広島　古屋雅三知

ＪＲ　経営破たんの危機にして　百年の計は何処にかある
新幹線　金食い虫のその蔭で置き去られしは地方交通
廃線に次ぐ廃線は利用者の心忘れし経営主義
雨と風　通勤列車はすぐ止まる　エリート族の事なかれ主義
去りし日の国鉄時代ぞ懐かしき　クルマ止めぬの心意気あり

夜の秋

函館　水関　清

飛び渡る幹の太さに音を変え　啄木鳥無心に　虫啄めり
心地よく酔ひて目覚めし夜半の空　兎窮屈　ああ後の月
桔梗咲く庭の一角　そこだけに　膨らみてある朝の空気
十薬の白き十字花　君隠る　終の友なる常なる紫煙
羊雲のごとき愁ひも溶け果てて　人も季節も　行合の空

本屋にて

旭川　稲積　文子

静かなる本屋の片隅われ一人　啄木晶子の作品の前
わけもなく人を恋うるは鉄幹の　青春ならず老い深まりて
年令に障碍プラスで生きてゆく　予想だにしなかった計算違い
用件を聞かずに鋭き拒否の声　電話の陰にひそむ不可思議
ＮＨＫ予報士のはくスカートは　ゆらゆらゆれてヒールは高し

酷暑

江別　三宅　浩次

人間の生きる力を削ぐごとく酷暑が続くじっと耐えいる
地球を丸ごと包む高温化この先不安いかに進むや
西日本豪雨災害追いかけて酷暑続くは何たる悲劇
環境を破壊した罰というのか酷暑が続く打つすべもなく
北海道の夏は短いと決めつけてクーラーなしでは矢張りつらい

医歌人会詠草の編集幹事を長年つとめられた古屋統先生が六月二十六日に逝去されました。本誌平成二十九年九月号には「吉村誠治先生を偲んで」という短歌をこの欄でご披露されるとともに、この時を期して私が編集幹事を仰せつかりました。ご冥福をお祈りします。古屋統先生は札幌市出身。北医専を昭和二十四年卒業され、美唄労災病院で精神科部長、道立保健所で所長を務められました。

編集幹事　浜島　泉